

平成22年 大分県の海面漁業・養殖業生産統計（概数）

－海面漁業・養殖業生産量は、前年に比べ1%増加－

【調査結果の概要】

- 平成22年（1～12月）の海面漁業・養殖業の生産量は6万2,539 tで、前年に比べ895 t（1%）増加しました。
- 海面漁業の漁獲量は3万8,803 tで、前年に比べ359 t（1%）増加しました。
これを漁業種類別にみると、大中型1そうまき網その他、中・小型まき網、船びき網等で増加しました。
魚種別では、いわし類、あじ類、まぐろ類等で減少しましたが、さば類が大幅に増加したのをはじめ、貝類、さわら類等が増加しました。
- 海面養殖業の収穫量は2万3,736 tで、前年に比べ536 t（2%）増加しました。
これは、まだい、ひらめ、くるまえび等で減少しましたが、ぶり類、貝類で増加したためです。

表 部門別生産量

単位 { 生産量：t
比率：%

区分	平. 22	21	対前年差	対前年比	構成比(平. 22)
総生産量	62 539	61 644	895	101	100
海面漁業	38 803	38 444	359	101	62
海面養殖業	23 736	23 200	536	102	38

注：ラウンドのため、総生産量と内訳は一致しない場合があります。

【解説】

1 海面漁業

海面漁業の漁獲量は3万8,803 tで、前年に比べ359 t（1%）増加しました。

主な漁業種類別・魚種別は、次のとおりです。

(1) 主な漁業種類別漁獲量

ア 小型底びき網

漁獲量は3,071 tで、前年に比べ403 t（12%）減少しました。

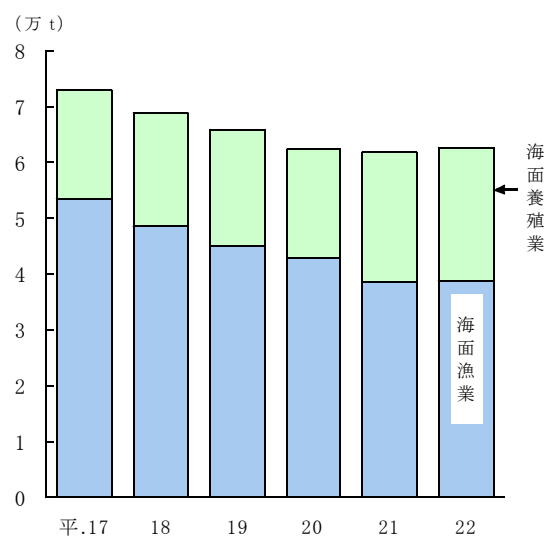
これは、いか類、その他魚類等で増加したものの、えび類（主にその他のえび類）、たちうお等で大きく減少したためです。

イ 船びき網

漁獲量は5,332 tで、前年に比べ342 t（7%）増加しました。

これは、かたくちいわしで減少したものの、しらす等で増加したためです。

図1 海面漁業・養殖業生産量の推移



この資料は九州農政局ホームページでご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/> 】

ウ まき網

漁獲量は1万5,771 tで、前年に比べ1,988 t (14%) 増加しました。
これは、いわし類、あじ類等で減少したものの、さば類が大幅に増加したためです。

エ その他の刺網

漁獲量は1,730 tで、前年に比べ41 t (2%) 減少しました。
これは、さわら類、たちうお等で増加したものの、その他の魚類、いか類等で減少したためです。

オ 小型定置網

漁獲量は1,967 tで、前年に比べ147 t (7%) 減少しました。
これは、たい類、さば類等で増加したものの、あじ類 (主にまあじ)、たちうお等で減少したためです。

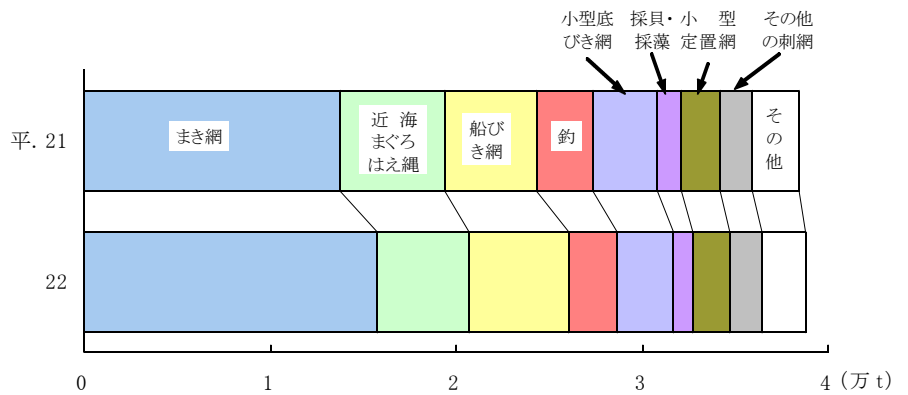
カ 近海まぐろはえ縄

漁獲量は4,951 tで、前年に比べ622 t (11%) 減少しました。
これは、まぐろ類全てにおいて (主にめばちまぐろ) 減少したためです。

キ 釣

漁獲量は2,593 tで、前年に比べ383 t (13%) 減少しました。
これは、ぶり類、たい類で増加したものの、たちうお、あじ類 (主にまあじ) 等で減少したためです。

図2 漁業種類別漁獲量



(2) 主な魚種別漁獲量

ア いわし類

漁獲量は8,940 tで、前年に比べ2,127 t (19%) 減少しました。
これは、まき網において、まいわし、うるめいわしが減少したためです。

イ まぐろ類

漁獲量は4,590 tで、前年に比べ561 t (11%) 減少しました。
これは、くろまぐろは増加したものの、その他のまぐろ (主にめばちまぐろ) で、減少したためです。

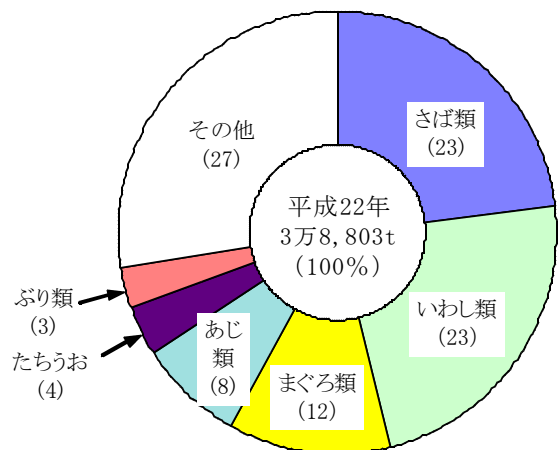
ウ さば類

漁獲量は8,961 tで、前年に比べ5,050 t (129%) 増加しました。
これは、主にまき網での漁獲量が増加したためです。

エ あじ類

漁獲量は3,066 tで、前年に比べ826 t (21%) 減少しました。
これは、むろあじ類は増加したものの、まあじで減少したためです。

図3 主要魚種別漁獲量の構成比



オ たちうお

漁獲量は1,385 tで、前年に比べ452 t (25%) 減少しました。

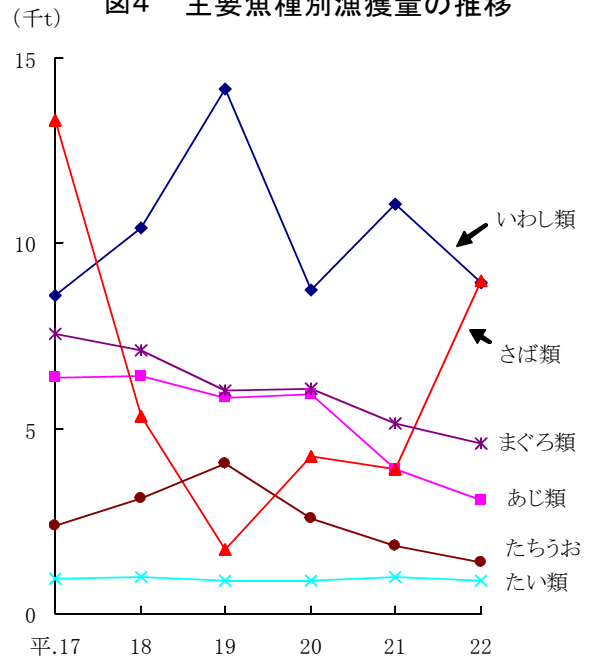
これは、釣、小型底びき網等で減少したためです。

カ たい類

漁獲量は879 tで、前年に比べ95 t (10%) 減少しました。

これは、まき網、船びき網等で減少したためです。

図4 主要魚種別漁獲量の推移



2 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は2万3,736 tで、前年に比べ536 t (2%) 増加しました。主な養殖種類別は次のとおりです。

(1) ぶり類

収穫量は1万9,815 tで、前年に比べ816 t (4%) 増加しました。

(2) まだい

収穫量は902 tで、前年に比べ102 t (10%) 減少しました。

(3) かき類 (殻付き)

収穫量は175 tで、前年に比べ55 t (46%) 増加しました。

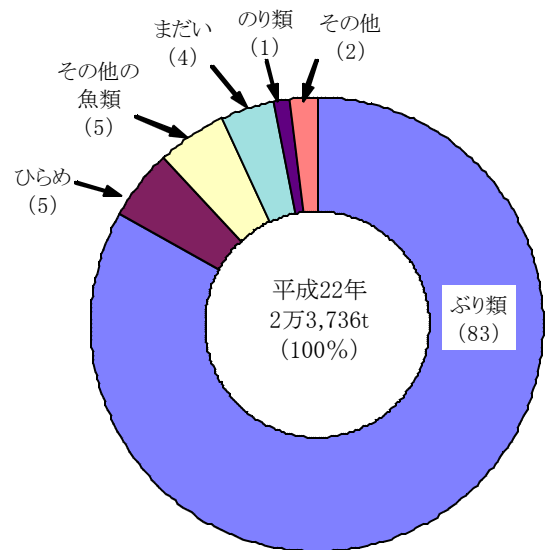
(4) くるまえび

収穫量は34 tで、前年に比べ41 t (55%) 減少しました。

(5) のり類

収穫量は238 tで、前年に比べ84 t (26%) 減少しました。

図5 海面養殖業種類別収穫量構成比



【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、海面漁業、海面養殖業の生産に関する実態を明らかにし、水産行政の資料を整備することを目的としています。

2 調査の対象

本調査は、原則、水揚機関を対象とし、水揚機関で把握できない場合に限り、海面漁業経営体を対象としました。

3 調査期間

平成22年1月1日から12月31日までの1年間です。

なお、遠洋漁業等で年を越えて操業する場合は、陸揚げのために港に入港した日の属する年に含めて調査を行いました。

4 調査方法

調査員調査及び往復郵送調査により実施しました。

5 目標（実績）精度

本調査においては、目標精度は設定していない。

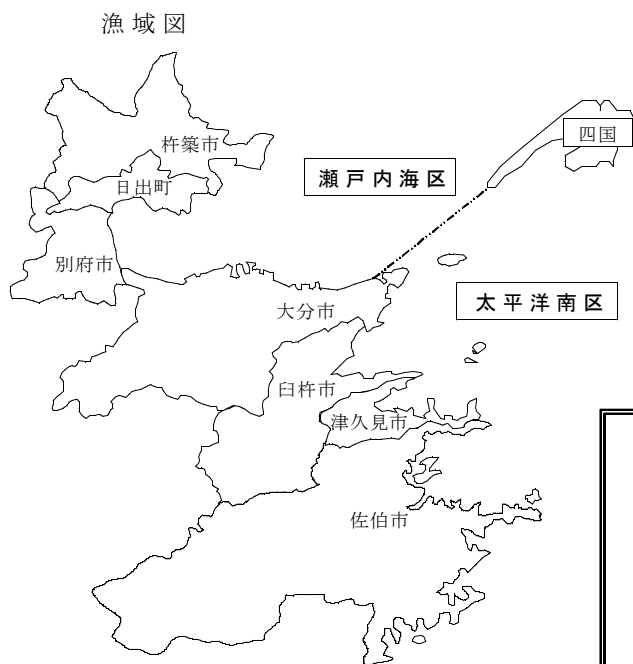
6 その他

この資料は、概数値であり、確定値については、追って刊行する「第58次大分農林水産統計年報」に掲載します。

○ 生産量は、「t」単位とし（真珠養殖を除く）、単位未滿を四捨五入したため計と内訳が一致しない場合があります。

○ 生産量のうに類、貝類は、殻付き重量、海藻類は生換算重量です。

○ この調査結果は、生産物を採捕した漁業経営体の所在地に計上したもので、いわゆる属人統計です。



【ホームページ掲載案内】

この資料は九州農政局ホームページでご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/> 】

問合せ先

◎ 本調査結果について

連絡先: 九州農政局 大分農政事務所 統計部

生産流通消費統計課

TEL 097-532-6177

FAX 097-538-1820

◎ 農林水産統計全般について

連絡先: 九州農政局 大分農政事務所 統計部

統計企画課

TEL 097-532-6177

FAX 097-538-1820